

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	平成25年度第2回加東市子ども・子育て会議		
開催日時	平成26年3月14日(金) 午後3時から午後5時まで		
開催場所	加東市役所301号会議室		
議長の氏名 (会長 名須川知子)			
出席及び欠席委員の氏名			
【出席委員】12人			
名須川知子委員	片山弘文委員	安田さち子委員	山田文彦委員
中山江津子委員	佐々木正利委員	宮崎久恵委員	角田久美子委員
西村のぞみ委員	安田ミツル委員	安田末子委員	藤原哲史委員
【欠席委員】4人			
田畑茂美委員	河野忠明委員	田中 勲委員	松本秀憲委員
説明のため出席した者の職氏名			
無し			
【出席した事務局職員の氏名及びその職名】			
教育委員会 教育部長 村上秀昭			
学校教育課 主幹 藤原良二			
福祉部 福祉部長 大橋武夫			
子育て支援課長 山本京子			
同副課長 友藤由貴子			
同主査 高田 篤			
【議題、会議結果、会議の経過及び資料名】			
1. 議題 (議事)			
議題(1) 平成25年度加東市次世代育成支援行動計画の進捗状況について			
議題(2) 「加東市子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る市民アンケート調査の単純集計結果について			
議題(3) 「加東市子ども・子育て支援事業計画」の構成案について			
議題(4) 「教育・保育の提供区域」の設定について			
議題(5) 加東市の現状と課題の検討について			
2. 会議結果			
議題(1)について			
「平成25年度次世代育成支援行動計画評価シート」に基づき、審議しました。			
議題(2)について			
アンケート調査結果(就学前児童保護者用・小学生保護者用)に基づき、審議しました。			

議題(3)について

資料①に基づき、審議しました。

議題(4)について

資料②に基づき、審議しました。

議題(5)について

資料③に基づき、審議しました。

### 3. 会議の経過

(事務局)

- ・開会挨拶(福祉部長)
- ・事務局自己紹介
- ・資料確認

#### 〈議題(1)〉平成25年度加東市次世代育成支援行動計画の進捗状況について

資料に基づき、事務局から概要説明の後、質疑応答。

(会長)

この計画は平成22年度から始まり、今年で4年目。来年度には計画の最終年度を迎えます。これまでの成果を引き継いでいけるよう、今後もこの会議で評価・検証していければと思います。

(委員)

施策番号13の「子どもの心の問題についての支援」について、スクールカウンセラーを配置して対応しているということですが、今の子どもの心の問題には、どういうものがありますか。

(事務局)

子ども同士の関わりでの問題が多い。学校に行きにくい、集団に入りにくいなどです。

(委員)

今の子どもは、バーチャルと現実の区別がついていないため、過激な暴力沙汰が起きているように思います。中学生まで成長するとなかなか矯正できません。小さな頃から、子どもの心の中の問題を把握して、対応していかななくてはなりません。市で何か取り組んでいることはありますか。

(事務局)

間接的な取り組みではありますが、「ネット見守り隊」を組織し、中学校において専門家による講演会を開催するなどして、インターネットの危険性を啓発しています。

また、地域子ども教室では、昔遊びなど、インターネットやテレビゲーム以外の遊びを提供しています。

(委員)

学校ではスマートフォンの使用は禁止されていますが、自宅に帰ると多くの子どもが利用しています。親がしっかり見守り、躰ないといけません。

今のお母さん方が、どこまで躰ができるか。それも問題ではないでしょうか。

(会長)

施策番号51にある「かとう子育てセミナー」や「学びのひろば」などで対応していくべきではないでしょうか。子育てのためには、親育てが重要です。

(委員)

親は保育所の先生の言うことをよく聞きます。保育所で子育てに関する話をしてもらえば効果的ではないでしょうか。

(副会長)

今、「親育てをなさい」ということが、幼児教育の中で盛んに言われています。保育士は、子どもだけでなく、保護者や家庭への支援をしていかなくてはなりません。

保護者に、保育所の言うことを素直に聞き入れもらうためには、両者の信頼関係が大切です。難しい問題ですが、積極的に取り組んでいかなくてはならないことです。

#### 〈議題(2)〉「加東市子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る市民アンケート調査の単純集計結果について

アンケート調査結果(就学前児童保護者用・小学生保護者用)に基づき、事務局から概要説明の後、質疑応答。

(委員)

子ども(子育て)に最も影響すると思う環境全てを選んでももらう設問で、複数回答が可能であるにも関わらず、「家庭」という選択肢を選んでいない保護者が5%います。

個人的には、子育ての主役は家庭で、学校等は準主役、地域は脇役と思っているので、信じられないことです。しかし、これが現実と認識し、議論していかないといけません。

(委員)

私のまわりには、祖母が孫を保育園に送迎し、食事もとらせているというケースが数件あります。(家庭が子育てを放棄したのではなく)働く母親が増えてきているので仕方ない面もあると思います。その母親も悩んでおられるかもしれません。もちろん、考えていかなくてはならない問題ではあります。

(委員)

「子育ては家庭で」という意識を持つのと、忙しいというのは別問題ではないでしょうか。(家庭で子育てしなければいけないという)意識があれば「家庭」を選ばないということはないはずです。

(会長)

(子ども(子育て)に最も影響すると思う環境として家庭を選んだ人の割合が)95%というのは、他市と比較すると高い数字です。

こういう状況だから、色々なところに歪みや問題が生じています。子育てに家庭が大切なのは当然のこと。親の心の支援が重要になってきています。

(副会長)

回答者の中には、成人ばかりでなく、未成年もおられるでしょう。また、複雑な環境で、子育てを頑張っている人もおられるでしょう。そういった方々を、支援が受けられる場所に引っ張っていくのも我々の仕事です。

(委員)

こういう問題を市役所全体で共有化することが大切でしょう。

(事務局)

平成26年度から、青少年健全育成に関する会議を中学校区単位で立ち上げます。ご協力をお願いします。

(委員)

アンケートに設問が多くあるので、適当に選択肢を選んだ方もおられた方もいるでしょうし、設問の意味を誤解した方もいるかもしれません。個人的には、95%もあれば十分ではないかと感じます。

(会長)

数字の解釈は色々ありますが、「子育てにおいて家庭・親が一番重要」ということは国も言っています。それをサポートするために、「社会で子育て」していくことが重要です。

(委員)

保護者に対する押しつけでない環境づくりをしていくのが、支援の一つになるのではないかと思います。

#### 〈議題(3)〉「加東市子ども・子育て支援事業計画」の構成案について

資料①に基づき、事務局から概要説明の後、質疑応答。

(会長)

今回示されたのはイメージですが、今後の進め方の輪郭くらいは見えたのではないかと思います。細かいところは今後議論していくとして、ここで方針を示しておく方が良いと思うのは、「次世代育成支援行動計画を引き継ぐかどうか」ということです。

加東市では、次世代育成支援行動計画を策定後、毎年、評価・検証を続けてきました。これまでの取組成果を生かすためにも、大枠としては、この方針で進めてもよろしいでしょうか。

※委員一同了承。

#### 〈議題(4)〉「教育・保育の提供区域」の設定について

資料②に基づき、事務局から概要説明の後、質疑応答。

(会長)

事務局からは、市内全域を一つの区域に設定してはどうかという提案がありましたが、いかがでしょうか。

(委員)

保護者の利用実態を反映しているのであれば、それでよいのではないのでしょうか。

※委員一同了承。

〈議題(5)〉加東市の現状と課題の検討について

資料③に基づき、事務局から概要説明の後、質疑応答。

(会長)

幼保一体化の推進については、平成24年度にワーキング会議を立ち上げ、議論しました。そして、平成27年4月から、私立保育所1園が認定こども園に移行されます。

公立の保育所・幼稚園も幼保一体化を推進し、モデルとなるべきと考えます。市の方向性はどうでしょうか。

(事務局)

公立の2幼稚園については、平成18年の加東市誕生以降、一度も定員を満たしたことがありません。今後もこれまで通りの運営を続けるのは、難しい状況です。

今後、新計画策定の過程で議論を重ねるとともに、利用者の意見なども聞きながら、良い方向性を見出していきたいと考えます。

(会長)

認定こども園になると、「子育てへの支援」が義務になります。先ほどの議論にもあったとおり、子どもだけでなく保護者への支援も行えることになります。

(委員)

家庭の教育力の向上について意識しながら、事業を実施していく必要があると思います。虐待をしてしまう人の問題を横において、虐待を発見することばかりに捉われてしまっはけません。

(副会長)

加東市において、子育てに関する施策を行っている部署は、子育て支援課、教育委員会、保健センターなど多岐にわたっています。これを、例えば「子育て支援部」などという一つの組織にまとめれば良いのではないのでしょうか。他市ではそういった動きもあると聞きます。

(委員)

今、幼稚園に通っている子どもは少ないですが、保護者は子どもや幼稚園のことを考えて、一生懸命やっています。また、認定こども園になったからといって待機児童が減るとは限りません。幼保一体化は必ずしなければいけないものなのではないのでしょうか。個人的には、幼稚園を残してほしいです。

(会長)

認定こども園になったからといって、幼稚園という名称がなくなるだけです。短時間利用・長時間利用という区分ができます(ので、短時間利用であれば内容は幼稚園と変わりません)。

理念的には、我が国では保育所・幼稚園が分かれて発展してきましたが、一つである方が子どもにとっても、施設にとっても良いと言われています。一つになることで、それぞれの良さが発揮されます。世界的にみると、就学前教育・保育の先進国は、幼保一体化しています。

ただ、慎重に扱うべき問題ですので、議論を重ねていく必要があると思います。

(事務局)

一体化するかどうかは別として、保育所、幼稚園、認定こども園化を含めた公立保育所・幼稚園のあり方の研究を、この会議で進めてはどうでしょうか。

(会長)

良いと思います。

(事務局)

それでは、次回会議から議題として挙げさせていただきます。

(会長)

兵庫教育大学でも、平成26年度から、幼稚園の下に「子育て支援ルーム」を設けて、0歳から5歳までを一体的に教育・保育していくことになりました。

「加東市に来たら良い教育・保育が受けられる」と言ってもらえるよう、市とともに取り組んでいきます。

- ・事務連絡（次回会議の開催時期・内容及び委員報酬について）
- ・閉会挨拶（教育部長）
- ・閉会

#### 4. 配付資料

〈事前配布〉

- ・平成25年度次世代育成支援行動計画評価シート
- ・アンケート調査結果（就学前児童保護者用・小学生保護者用）

〈当日配付〉

- ・「加東市子ども・子育て支援事業計画」の構成案について（資料①）
- ・「教育・保育の提供区域」の設定について（資料②）
- ・加東市の現状と課題の検討について（資料③）
- ・計画書のイメージ

平成26年4月4日

会長 名瀬川 知子

